

薬物療法

肥満症治療の基本である食事療法および運動療法をあらかじめ行っても効果が不十分な場合、食事療養と運動療法を続けながら、肥満症治療薬を開始します。

肥満症治療薬のはたらき

食欲や脂肪の代謝を調節するホルモンと同じようにはたらくことで、体重の減少が期待できます。

投与方法


週1回、決まった曜日に投与してください。

自己注射ができるように開発されたペン型の注入器で注射します。



※ 詳しい投与方法は各薬剤の説明書をご確認ください。

持続性 GIP/GLP-1 受容体作動薬

ゼップバウンド®皮下注アテオス(1回使い切り)	例) 
-------------------------	--

持続性 GLP-1 受容体作動薬

ウゴービ®皮下注 MD(複数回使用)	例) 
--------------------	--

主な副作用

低血糖(冷や汗、手足の震え、動悸など)

胃腸症状(吐き気、便秘、下痢、腹部不快感など)、食欲減退